

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4271401103
法人名	医療法人 弘池会
事業所名	グループホーム かづさの杜
訪問調査日	平成 19 年 9 月 29 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 3 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271401103
法人名	医療法人 弘池会
事業所名	グループホーム かづさの杜
所在地 (電話番号)	南島原市加津佐町戊4448 (電話) 0957-87-5688

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成19年9月29日	評価確定日	平成19年12月3日

【情報提供票より】(平成19年 8月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13年 3月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8人 常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 5.6人

(2)建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	耐火建築物 造り 1階建ての 1階 ~ 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000円	その他の経費(月額)	光熱費:210円/日	
敷金	有()円	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	262円	昼食	367円
	夕食	420円	おやつ	0円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(平成19年 8月 1日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	0名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	78歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	口之津病院、菅歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

老人保健施設に隣接して建てられたホームであり、医療連携体制の整備、緊急時対応や感染症対策をはじめとする研修や委員会など、母体の医療法人と協力体制をしっかりと図りながら、医療面をはじめとする様々な利用者の支援を行っており、開設当初から、午後のおやつ時間の後に下肢筋力低下を防ぐために独自に作ったプログラムや歌、ゲームなど楽しみながらリハビリを行い、身体機能の低下の予防に積極的に取り組んでいる。

また、利用者の希望にあわせた散歩や馴染みの店への買い物、お墓参りへの外出の支援、生け花などの趣味活動、経験を活かした調理や掃除などの家事を利用者のペースに合わせて行えるように支援している。このように、法人の理念を基本とし、ホーム独自に「家庭的な環境で自分らしい生活のリズムを保ち、共同で暮らすことによって、精神的に安定した健康で明るい生活を支援します」という運営方針を掲げ、日々のケアに取り組んでおり、今後より良いケアサービスに向けた取り組みが期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 過去の外部評価の結果を受け、管理者を中心とし職員全員で改善策について話し合い、「少しずつでも良いから」と、評価を活かして一つ一つ改善に向けた取り組みを行っている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 主任の職員を中心として、ミーティングなどの際に職員全員で1項目ずつ話し合いながら自己評価に取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、行政関係者、利用者家族の代表、地域住民の代表、ホームの管理者、職員で構成され、2ヶ月に1回開催しており、会議では、現状や状況の報告、行政からの制度的な説明、外部評価の結果報告等について話し合いを行っており、出された意見などをサービスの向上に活かすように取り組んでいる。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族と定期的話し合いの機会を持ち、ホームでの暮らしぶりやケアプランの説明を行っている。また、緊急時にはその都度連絡を取っており、健康状態や金銭の管理に関する事などは日常的に電話連絡を行っている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の小学校の行事や保育園のお遊戯会への参加や、小学生の訪問、中学生の職場体験などの受け入れを行っているほか、地域の方々や家族がホームに立ち寄ってくださるなど、地域住民との交流が活発に行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして母体である医療法人の理念を掲げるとともに、法人理念を基本として、グループホーム独自に家庭的な環境での生活の支援を行うという方針も掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、理念や方針について日常的に職員に話をしており、玄関にはホーム独自の運営理念(方針)を掲げて、職員はそれらを認識しながら日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校の行事や保育園のお遊戯会への参加や、小学生の訪問、中学生の職場体験などの受け入れを行っている。また、地域の方々や家族がホームに立ち寄ってくださるなど、地域住民との交流が活発に行われている。		現在、地域の方との交流を積極的に行われているので、これからも引き続き交流の機会を持ち、利用者も地域の一員として活動されることが期待できる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去の外部評価の結果を受け、管理者を中心に職員全員で話し合い、「少しずつでも良いから」と評価結果を活かして改善に向けた取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、行政関係者、利用者家族の代表、地域住民の代表、ホームの管理者、職員で構成され、2ヶ月に1回開催している。会議では、現状の報告、外部評価の結果報告等をテーマとして話し合いが行われており、会議で出された意見などをサービスの向上に活かすように取り組んでいる。		

長崎県 グループホームかづさの杜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1度開催している運営推進会議に市の担当者に参加してもらい、現状や外部評価の結果報告等について意見交換などを行い、連携を図るよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は、家族と定期的に話し合いの機会を作り、利用者のホームでの暮らしぶりや介護計画の説明を行っており、緊急時にはその都度連絡を入れている。また、健康状態や金銭に関することなどは、日常的に電話連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との定期的な話し合いを行い、家族から意見を出してもらえるように職員から積極的に声をかけ話を聴くようにしているが、現在、なかなか意見が出てこない家族への働きかけの難しさを感じている。		遠慮しているように感じられる家族などには、ホームを訪れた際に職員から積極的に声をかけるように取り組まれているが、様子を観ながらどのような意見を持っているか考えて関わったり、信頼関係の構築に努めるなど、あきらめることなく働きかけるよう取り組んでいただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動があるものの、現在グループホームの職員の異動は行われておらず、利用者との馴染みの関係が保たれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人内で開催している研修には毎回参加し、外部の研修会にも業務との折り合いをつけながら、積極的に参加するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町内で作られている「ケアネット」という集まりに参加しており、グループホーム事業者をはじめとする同業者や福祉関係者との交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前だけでなく、入居後も家族と十分に話し合い、利用者がホームになじみやすいよう取り組み、職員も自然に関わるように努めている。訪問調査時にも、9月はじめに入居した利用者が落ち着いた雰囲気過ごしている姿が見受けられた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜を切るなどの調理や食事の準備を利用者と職員が一緒に行ったり、利用者が掃除をしてくれたりする中で、職員が利用者から学ぶことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向を大切に、利用者の自宅への帰省や墓参り等のふるさと訪問を実現できるように、外出支援などに積極的に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的な家族と話し合いを行うと共に、職員間で協力しながらアセスメントを行い、利用者本人ができることを把握し、それを活かせるように介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な家族との話し合いやアセスメントを行いながら見直しを行うとともに、状態の変化が見受けられる際など必要に応じて、随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望、状況に合わせて、お墓参りや自宅への帰省の支援を行ったり、医療連携体制の整備により、利用者の健康管理の徹底や、できる限りホームで過ごせるような医療的サポートを行ったりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が納得しているかかりつけ医に受診できるように支援しており、受診結果は家族に報告している。また、状況に応じて家族が受診の同行をした時には、ホームに戻った際に結果を尋ね状態の把握に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が終末期になった時にどのように関わっていくかについて、家族、利用者、主治医との話し合いを行っているが、職員間で十分な共通理解がない部分があるように感じられた。	○	今後看取りの指針を作るよう計画されているので、積極的に取り組まれるとともに、余命6ヶ月などの終末期になってからの具体的対応について、職員間であらためて共通理解が得られるよう話し合い、より良い支援体制ができるよう取り組まれることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	便りや広報などに使う写真等の個人情報については、必ず家族に許可を得て使用するなど、取り扱いに注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、居室や居間など思い思いの場所で、本を読んだり、片づけをしたりして、一人ひとり自分のペースで過ごしている。		

長崎県 グループホームかづさの杜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせて当番を作っており、利用者と職員と一緒に食材を切ったり、料理を盛り付けたりしている。後片付けも、身体的に元気な利用者が他の利用者のもも片付けるなど、協力し合っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の際はプライバシーに配慮し、入浴前に更衣をする時から入浴後の更衣を終えるまで一人の利用者だけが浴室・脱衣所を利用できるようにして、一人ひとり個別に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりがその人らしい生活を送れるように、これまでの経験を活かして食事の準備などの家事をしたり、生け花等の趣味活動や地域の保育園の子ども達との交流を図ったりと、いろいろな場面で支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせて、散歩や馴染みの店への買い物など日常的な支援を行うとともに、お墓参りなどへの外出支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけておらず、職員は、利用者が玄関から出て行く気配を感じると、さりげなく声をかけ玄関のベンチで話をしたり、散歩に出かけるなどの対応をしている。居室の窓は、日中は利用者が自由に開閉しており、夕方以降は戸締りしている。		居室の窓からはベランダに出ることができるため、危険防止などの方策を万全にされることを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練と消防訓練は、年2回利用者とともにしている。また、消防訓練の際には、消防署の協力を得て、署員立会いのもと行っており、具体的に消火方法などについての指導も受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	これまでの4年間は法人内の管理栄養士が献立を作成しており、現在は、その献立と栄養計算表を参考にしてホームにおいて献立を作成している。また、利用者一人ひとりの咀嚼や嚥下の状態に合わせて細かく刻むなどの対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、利用者が散歩の際に摘んできた花などの季節の花を飾る等しており、季節感や生活感が感じられた。しかし、浴室やトイレ等は、雑然と物が置かれているように見受けられた。	○	収納などは、扉を閉めており中が見えることはないものの、おむつがむき出しになっている点などについてはプライバシーの面からも更なる配慮をしながら荷物を整理されることが必要ではないかと思われる。また、整理整頓も入居者への安全管理の一環と考えられ、より良い収納の管理に努められることを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のベットはホームが準備しているものだが、居室内のダンス等の家具は、利用者が自宅で使用していたものなどを持ってきている。また、利用者と家族が好みに合わせて装飾品を飾るなどして、利用者それぞれに自分らしく、居心地のいい空間をつくるように工夫されていた。		